

「無降雨時等の崩壊研究会」の概要

1. 目的

降雨終了後、あるいは直近の降雨の影響を受けず、全くの無降雨時に発生する斜面崩壊（以下、“無降雨時等崩壊”と称す）については、今年4月11日に発生した大分県中津市耶馬溪町の土砂災害のように、過去にも地域住民に人的被害が生じている。また、救助・捜索や復旧・点検活動中の二次災害の危険性も高い。このような崩壊は全国で発生事例がいくつか見られ、その中でも九州地方においては、平成22年鹿児島県南大隅町や平成27年同垂水市の発生事例、さらに耶馬溪町の土砂災害のように発生事例が多く、特に火砕流台地周縁部に多く発生する傾向が見られる。そのため無降雨時等崩壊の対策が急務であるが、崩壊の発生メカニズムは不明な点が多く、効果的な対策を講じにくいのが現状である。そこで耶馬溪町など九州内の災害事例を解析し、崩壊発生メカニズムを考察するとともに、九州地方における無降雨時等崩壊の発生する危険性が高い斜面を抽出する手法を確立する。

2. 検討内容とアウトプット

(1) 検討内容

①火砕流台地周縁部で発生した無降雨時等崩壊の実態整理

発生頻度が高い火砕流台地周縁部で発生する無降雨時等崩壊について、発生実態（規模や形態、降雨ピーク・終了時間と崩壊発生時間の関係など）を整理する。

②発生場所の地形・地質特性の整理

地形や地質調査により、崩壊地周辺の地質状況の把握や無降雨時等崩壊の誘因となる地下水が集中する斜面の地形・地質特性を把握する。

③発生場所の水文特性の整理

火砕流台地周縁からの地下水流量を観測し、地下水の流出特性を明らかにする。また地下水の流出特性と地形・地質特性の関連性を分析する。

④崩壊発生メカニズムの考察と危険性の高い斜面の抽出手法の確立

①～③により、火砕流台地周縁部で発生する無降雨時等崩壊の発生メカニズムを考察し、これを踏まえて無降雨時等崩壊の危険性が高い斜面の抽出方法を検討する。

(2) アウトプット

①無降雨時等崩壊の発生メカニズム

②九州地方における無降雨時等崩壊の危険性が高い斜面の抽出手法

3. スケジュール

・平成30～31年度の2カ年を予定。

※観測や調査の進捗に応じて見直しもあり得る。